

## 令和2年度第2回子ども・子育て会議部会 会議録

### 日時

令和2年12月23日（水曜）10：00～11：30

### 場所

ZOOMアプリにてオンライン開催

### 出席委員

吉川部会長、中山委員、藪本委員、橋本委員、田中委員

### 欠席委員

なし

### 事務局

熊井子ども家庭部次長兼子ども家庭課長  
青野子ども政策室長・倉本子ども家庭課主任主査  
廣原子ども家庭課主査・北根子ども家庭課主事

### 議題

第2期子どもをみんなで育む計画の事業評価見直しについて

### 配布資料

資料1：部会における審議事項  
事前資料：第2期計画策定時事業評価一覧

## 議事録（概要）

### 《事務局》

定刻となりましたので、只今から、令和2年度第2回流山市子ども・子育て会議部会を開催させていただきます。

前回に引き続き第2期子どもをみんなで育む計画の事業評価見直しについてご審議いただきます。ここからの進行は部会長をお願いします。

### 《吉川部会長》

次第に従いまして、第2期子どもをみんなで育む計画の事業評価見直しについて、事務局から説明をお願いします。

### 《事務局》

資料1：部会における審議事項

事前資料：第2期計画策定時事業評価一覧 について説明。

### 《吉川部会長》

まず、事業の進捗管理における評価指標の確認について皆さんから意見をいただきたいと思います。今回事前に橋本委員から事業評価について資料を提供いただいていますので、まず橋本委員からご説明をお願いします。

### 《橋本委員》

流山市教育委員会から、令和2年9月に、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価というレポートがリリースされています。整理の仕方がわかりやすく事業ごとに、内容、目標達成のための取り組み内容、取り組み結果、評価理由、今後の課題、改善点という分類で事業ごとに評価しています。今回評価・理由、今後の課題、改善点というこの三つの項目について取り入れることができたらと考えています。

評価についてはどうしても担当課の自己評価になってしまうので、まず「S・A・B・C・D」という5段階評価区分にしました。通常、「当初の計画通りできました」というものをB評価、80%とします。最上の結果というのは100%以上のもがS評価、次が81%から99%でA評価、3番目に普通のB評価というのが80%。4番目の悪い評価というのは、60%から79%。最悪の結果のD評価は、60%未満という、評価区分に基づき評価をしていただきます。

自己評価ですからどうしても評価が甘くなってしまいます。担当部署が厳しく評価をして、改善策、どのような問題点があってどういうふうに改善していく

かということを書いていただく欄をぜひ入れていただければと思います。

今回のこの重点施策の中で、今後の課題と改善策というものを事業ごとに、認識していただいて進めるということが大事だと思っております。皆様のご意見を頂戴できればと思います。

《吉川部会長》

ありがとうございます。今の橋本委員からの提案を受けて、皆様からご意見をいただきたいと思うのですが、皆様いかがでしょうか。ご意見のある方いらっしゃいましたらお願いします。

《藪本委員》

橋本さんありがとうございます。大変参考になりました。この数字のとらえ方によっては、危険かなというところがあって、80%でいいんだというように思われてしまうと、その目標設定の意義が無くなってしまいます。個人としては、一般社会とか一般企業の視点から、目標通り達成できた場合は100%だと感じていますので、事務局の方でご検討いただきたいです。

今回の枠組みの件に関して、自己評価が基本的にこの行政評価の中で中心になっています。その指標の妥当性に対して、目標の妥当性の話と、評価の妥当性の話が、評価シートの中で欠落をしていると思っています。私は会社員として、通常こういった評価をする時に目標設定をする時は、自己評価・自己決定だけでなく、上長であったり、別部署であったりが第三者として評価をしたり、調整をしたりするプロセスがあるはずですが、今回の場合はそれがありません。実際流山市という行政組織の中でできるかどうかは別として、視点としてお持ちいただいた方がいいと思います。

実際、定性目標や定量目標の妥当性のところ、なぜここがこうだから、この数字を目標にするのかという視点を先ほどの目標設定をするときに、なぜこの目標にしたのかというところは、明文化しといた方がいいと思います。

《吉川部会長》

ありがとうございます。田中さん、中山さんご意見ありましたらお願いします。

《田中委員》

橋本さんありがとうございます。私も参考にさせていただきました。今までの評価表には、事業実績だけの掲載のため、これに対する評価を行うのが行政だけとなっています。橋本さんからいただいた資料の点検評価の方法のところに、

客観性を確保するため学識経験を有する外部の方からご意見をいただくという記述もありましたので、私も取り入れられるところは取り入れたほうがいいと思いました。

当事者が不在というところがあるため、どのような課題があるのかは、当事者側からとその担当側からの視点があると思うのですが、そこを一致させて、次の目標につなげる必要があります。藪本さんから目標の設定根拠を書いた方がいいという話がありました。この課題の共有がないと根拠設定にもその視点が入りません。そこがわかるようにしていただくとありがたいです。

《吉川部会長》

ありがとうございます。中山さんいかがですか。

《中山委員》

橋本さんありがとうございました。私も藪本さんのおっしゃっていた数字の問題の部分で、B評価で80%の場合、その80%で満足しているのかという部分で共感しました。その辺りの数字等も含めて、もう一度お考えいただければなと思いました。

《藪本委員》

先ほど田中委員のお話にも通じるところですが、特に定性評価の設定の仕方をみると、事業一覧1ページ目の例えば、2番の子育て支援総合窓口事業で、定性評価内容が、事業内容がそのまま記載されています。この連絡調整を行いますということに対して、具体的にどうするのかという話が、本来の定性評価のそのプロセスに対するシステムのその目標だと思います。具体的に連絡調整で何を行うのかというところまで落とし込まなくてははいけません。例えば、こういった新しい関係性を作るための会合を設定するように働きかけますや、そういった部門の専任の人を用意しますといった、具体的なところまで落とさないと、定性評価につながらないと思います。定性評価の部分でそのように感じたので、各担当課で、評価に対しての目標設定をしないと意味がありません。

定量評価に関して、結果、何件になりました、何%になりましたという実績は大事ですが、これを作るために何をしたかということが重要です。普及啓発、相談事業の実施件数に関しては、結果はもちろん大事です。その結果に至るためのプロセスの中を数値化して目標にしないと、私は大事だと思います。

《吉川部会長》

ありがとうございます。今の皆さんからのご意見に対して事務局の方から、対

応策とか、今お話できることはありますか。

《事務局》

ありがとうございました。橋本委員ご提案いただきましてありがとうございます。確認ですが、橋本委員からご提案いただいている、普通の80%は、これが最低ラインというようなイメージでよろしいでしょうか。

《橋本委員》

最低ラインというよりも、当初の計画内容が普通にできたというところで80%という意味になります。それ以上に、実際に担当部署で工夫して、さらに参加者から評価が得られた場合はAになり、Sになるという意味です。80点で決して良いということではありません。通常は80点しかあげられないよという意味です。

《事務局》

ありがとうございます。藪本委員からいただいたお話の中での「普通」というのは、橋本委員のお話の中でいう、予算の執行や通常業務がなされるのであれば、B評価の80%であるという理解でよろしいでしょうか。

《藪本委員》

ベースの位置付けが橋本委員と私は違うと思っていますので、何を目標としてその中央値をどこにするのかって話だと思います。

行政的な視点で見ると、予算執行のための目標の数字があれば、それは超えて当然で、80点というのはわかります。役所内の評価の論理があると思うので、最低ラインを、中央値にすべきじゃないでしょうかっていう話で、頑張ったところはちゃんと評価されないと、やる気にならないですし、中央値をBとした場合、みんなBになるのがまず当たり前です。そろえるというのがいいと思っていますので、橋本さんの意見と基本的には趣旨は同じです。

《事務局》

ありがとうございます。定量評価の基準も入れたほうがいいのではないかという意見の考え方について、各施策の個別事業自体が計画上の各主要課題にぶら下がっています。例えば、子育て支援総合窓口事業は、この左側の(1)の「情報提供等団体への充実」にぶら下がっています。普及・啓発や教育事業は、個別事業の積み重ねの上で、最終的に、(1)の情報提供、相談体制の充実が、ちゃんとなされたかどうかという評価を行います。さらにアウトカム評価で、各満足度

を見れば良いと考えています。目標設定の根拠という部分は、評価を視点を明確化しているという認識でよろしいでしょうか。

#### 《藪本委員》

おっしゃるとおりです。具体的なゴールに対して、プロセスをどのように評価していくかという視点が欠けています。結果のところだけ論じても意味がなく、それに向けてこういう活動をするので、この事業に対して、このような方向で持っていくためにこれをやりますというのを見える化しておいた方がよいと思います。逆に、アウトカム評価のところに関係性がないのであれば、そのプロセスに時間をかける意味がないわけです。A評価やS評価を目指して事業を実施して、アウトカム評価の時に、市民の目線から見たら、満足度につながっていない場合、別のプロセスに対してのアプローチを考えていくというPDCAが回せるはずで

す。そういう視点として、プロセスの見える化とできる限り数値化するという話だと思います。

#### 《橋本委員》

藪本委員のプロセスを大切にすることとは、評価の非常に大きなポイントだと思います。教育委員会で実施しているこの点検及び評価の中で「目標達成のための取り組み内容」と「取り組み結果」という欄があります。どういうことに取り組んで、結果がどうであったかということが流れとして見えるようになっています。子ども家庭課から各課に依頼を出すときに、この視点から評価を行うことが考えられます。

#### 《吉川部会長》

ありがとうございます。橋本さんの今のご意見に対して事務局いかがでしょうか。

#### 《事務局》

ありがとうございます。橋本委員からいただいた情報を元に教育委員会の教育総務課と意見交換をいたしました。この教育委員会の評価点検は、教育委員会の審議組織で、我々と同様に委員の皆様と作り上げたという経緯があります。評価区分についても話し合われて設定したそうです。

取り組み結果や目標のための取り組み内容を顕在化させることで、その評価内容と、実際やった内容が、できる限り明確に結びつけられるようにという方針でこの表が策定されたそうです。

《田中委員》

先ほど当事者が不在という話をしましたが、このアンケートに関しては、もう少し細かく事業ごとに実施したいです。例えば、ある子育て事業について、それに対する担当課の自己評価、当事者の自己評価が、乖離がある場合がありますので、そこを見ていただきたいと思います。

《吉川部会長》

事務局としては、今回は事業の進捗管理における指標の確認について、各委員からご指摘があった点を事務局の方で含んだうえで、評価指標を作られると考えてよろしいでしょうか。

《事務局》

その通りです。田中委員からのご意見の確認ですが、行政として出した結果に対してのギャップをどうとらえるかということでしょうか。

《田中委員》

130もの事業の中でどれだけ各課でアンケートを実施しているかがわかりません。例えば、私たちがNPOで実施しているものについては、全部アンケートをとっています。例えば、相談窓口では相談が終わった後に、アンケートを渡して集計するなどが必要ではないでしょうか。

《事務局》

ありがとうございます。アンケートの実施状況を把握できるかは確認します。事業評価とのギャップ部分は、アウトカム評価で把握することを考えています。田中委員の意見としては、アウトカム評価だと個別事業ではなくて、広い視点での評価になってしまい、各個別事業に対してのギャップをどう把握しているかということでしょうか。

《田中委員》

そうですね。各事業の課題整理や、次に何をすべきかを整理することが必要だと思うので、まとめて相談事業として最終的に評価していくべきだと思います。

《事務局》

例えば児童センターでは、利用者アンケートを実施しています。事業担当課は、当然良い意見と悪い意見を把握しています。その上で、子ども家庭課の各事業評価に落とし込んでいます。田中委員がおっしゃっている、悪い部分をどう捉える

かは、各個別の各事業、各団体単位で把握した状態で、評価の中に含まれているという認識です。

#### 《藪本委員》

相談事業は、相談をすること自体に対してハードルがあります。市民目線で本当に相談しやすいかどうかは視点としてありません。評価内容を見ていると、事業実績について実態とのずれを埋めるために、声を聞いた方がいいのではないのでしょうか。

相談件数を把握することはもちろん重要ですが、この解決すべき全体の総数がそもそも何件あったのかに対して、クリアしたら何件ですという視点で評価してはどうでしょうか。この全体の総数を把握するために、そもそも相談に行かない方の理由など、もう一步さかのぼる必要があると思います。

#### 《事務局》

ありがとうございます。1回1回その相談した方に対して、満足しましたかと聞くような場面は把握していません。

先ほど田中委員から、行政の中で行うアンケートや、各担当課の方で持つ指標があるので、その中で、満足度や届けたい人に情報が届いたかの情報を持っている部署もあるか一度洗い出します。

#### 《藪本委員》

もう1つ視点として、サービスを提供している事業者の評価はアウトカム評価の時に取られると思いますが、何か参考値として取るという考え方はないのでしょうか。実際に声の吸い上げ方のところで、利用者自身からの声が上がらないところ、実は事業者側が把握していることがあると思います。

#### 《事務局》

ありがとうございます。指定管理者制度を導入している児童センターを例に取れば、年2回満足度調査実施しています。各担当各施設は、そこで把握した利用者の実情を運営に活かしています。

#### 《吉川部会長》

相談事業に関して中山さんは何か意見はありますか。

#### 《中山委員》

前回は申し上げましたが、相談できない境遇とか、アンケートを幅広く実施す

るような環境にしていただけると、ありがたいと思います。

《田中委員》

例えば39番の健診後のフォロー体制づくりで、例えば乳幼児健診の結果、健康増進課でやっている幼児グループで少し発達に心配があるお子さんのための教室があります。そこもいっぱい入れないという話も聞きますし、相談が数ヶ月待ちという現状があります。こうした課題に対するプロセスを見える化した方がいいという話ですね。

《橋本委員》

事業評価の表の中に、今後の課題と改善策欄を設けると、今後の課題として先ほどの受け入れ施設が足りないということや、改善策欄に、受け入れ施設の増設を記載できます。第2期計画は令和6年度までの計画期間ですので、いつごろどういう形で実現したいからこれを解決したいかというものが、記録として残るようになるのではないのでしょうか。

《吉川部会長》

ありがとうございます。事務局の方は、今のご意見に対していかがでしょうか。

《事務局》

今後の課題や改善策の欄を設けることで、明確化されると思います。今後の評価は、来年度全体を把握したうえで、事業評価の実施タイミングや振り分けの議論になっていくと思います。

《吉川部会長》

ありがとうございます。事業の進捗管理における評価指標の確認については、今の段階で、まとめさせていただいてもいいですか。

また、前回部会の際に皆さんから各事業や分野について意見をいただきました。他のことでも皆さんお気づきになった点がありましたら事務局の方に、ご連絡いただければと思います。

《事務局》

皆様から頂いた意見については、来年度評価を実施する際に事業担当課に付帯意見として伝える予定です。そのため、その意見を反映した結果については、来年度皆様にお見せすることになりますのでご了承ください。

《藪本委員》

今回この部会で話し合った意図や趣旨を、他の事業担当課に附帯意見として投げて、戻ってきた時に当初の事業評価と変化がない場合を懸念しています。子ども家庭課である程度趣旨を説明して、方向性がずれないようにしていただくと助かります。

《事務局》

事業担当課がどうしても今までの評価指標を採用したいのであれば、理由を確認のうえ、皆様に報告したいと考えています。

《吉川部会長》

お子さんを持ったお母さんが最初に触れる行政は、母子健康手帳を取りに行くことだと思いますが、その担当は健康増進課です。南流山センターの窓口でも保健師の方がきめ細かくフォローされている様子よく見ます。そこが切れ目のなく、子どもの成長に合わせ、皆さんの方に繋いでいける状態を作ることが大切ですので、そこは縦ではなく横の繋がりで進めていただきたいと思います。

《田中委員》

健康増進課が窓口で対応してそこで終了ではなく、アフターフォローを見て欲しいです。そこをどの辺まで評価するのは難しいところだと思います。

4ページの41番の「養育支援」で、実施件数が1世帯とありますが、実際はそれ以上あると思っています。

《吉川部会長》

担当課の人員配置などマンパワー的に無理なのか、その事業を重視して考えていないのかは、課によって考え方が違うと思います。そこはすり合わせをして、どこまでを担当課の仕事としてとらえているかは確認してもらう必要があると思います。

《田中委員》

橋本委員が示していただいたような今後の各課題と、改善策は、見えるようにしたほうがいいと思います。その結果を踏まえたうえで課を跨いで、こういうプロセスを取れますという話になると思います。

《吉川部会長》

評価指標の確認については、よろしいでしょうか。続いてアウトカム評価の実

施については、事務局はどのような計画をしていますか。

《事務局》

前回の第1回部会の資料としてお配りした、子育て支援施設へのアンケート調査の実施を考えています。

《吉川部会長》

アンケート調査の実施について皆さんから何かご提案はありますか。

《藪本委員》

アンケートの形式についてはいろんな考え方がありますが、前回のアウトカム評価の時に、子ども・子育て会議の中で様々な意見が委員から出ていました。議事録を見返していただいたうえで、ご提示いただいた方がいいと思います。どこまで評価対象なのか、ヒアリングの対象を拾えているかが出ていたと思いますので、その視点は盛り込んでいただいた方がよろしいかなと思います。

《田中委員》

どのようなアンケートを担当課で実施しているのか教えていただければ、こういうアンケートをとったほうがいいのかという話まで部会でできると思います。

《事務局》

他の評価のアンケートの内容の報告は、この部会もそうですし、本会議の方でもご提示するので、そこで成果項目や文言も含めて確認をお願いします。

《吉川部会長》

このアンケートは、計画全体としてお配りしているアンケートで、個別事業についてのアンケートではないですね。

《事務局》

事業目標に紐づいたアンケート調査で各事業を対象に行うものではありません。

《吉川部会長》

第1回部会の資料4のアンケートをみっていますが、今回は個別事業についてのアンケート調査もしていただけるということでもいいんでしょうか。

《事務局》

個別事業のアンケートは、各課で実施しているものがあるので、一度洗いだしをしたいと思います。改めて個別にアンケートを実施するということではありません。アウトカム評価については、計画全体として実施します。以前お配りした資料は平成28年度に実施したものですので、今回バージョンを皆様からの意見をいただき修正した上でお示しさせていただきます。

《吉川部会長》

原案はいつごろご提示いただけますか。

《事務局》

原案は次回の部会前にお配りして、文言も含めて揉んでいただく形になります。本日の審議事項⑤アウトカム評価の実施の部分で、参考となっているものを取り入れていきながら、今回バージョンを示したいと思います。

《吉川部会長》

わかりました。皆さんもそれでよろしいでしょうか。

《藪本委員》

今回枠組みとしての方向性が決まったと思っています。プロセスに対しての評価の視点が全体として共有ができていて、大きな一歩だと思っていますので、ぜひこのまま進めていただければいいなと思います。

《吉川部会長》

ありがとうございます。事務局の方から、まとめということでご連絡ありましたらお願いします。

《事務局》

橋本委員からアドバイスご提案いただいた評価点検につきましては、教育委員会のものを取り入れていきながら、案を事務局で作成したいと考えています。またアウトカム評価については先ほどの通り、案を作成いたしますので、次回会議でご覧いただければと考えています。個別事業の各評価の視点は、この後や次回会議の中で、もう一度ご意見をいただければと考えています。

以上